

“潮待ちの港”の歴史

しおま みなと とも うら
 みなとオアシス 潮待ちの港 鞆の浦



時代を先取りする人と文化が集まる町

鞆の浦は昔から潮待ちの港として栄え、豊かな文化を育んできました。満ち潮になると西は豊後水道や関門海峡から、東は紀伊水道から潮が入り、鞆の浦沖でぶつかります。やがて西廻り航路が開発され、北前船などの商船が出入りするようになると港町としてさらに発展しました。

江戸時代には朝鮮通信使やシーボルトを伴ったオランダ商館長の一行が入港するなど国際都市の一面ものぞかせ、時代を先取りして進化し続けました。歴史的な遺産も多く見られ、江戸時代の港湾施設である常夜燈、雁木、波止、焚場跡、船番所跡が残っています。



鞆の浦の風景

150年の時をこえて 「いろは丸事件」の足跡をたどる

命がけの交渉を辿る!

1867年（慶応3年）坂本龍馬率いる海援隊の「いろは丸」と紀州藩の軍艦「名光丸」が衝突し、「いろは丸」が沈没しました。その後、龍馬らは交渉を行うために、鞆の浦に上陸し滞在しました。この出来事を「いろは丸事件」といい、鞆の浦には今でも龍馬ゆかりの地が残っています。



福山市イメージキャラクター「鞆龍馬」と平成いろは丸 →

幕末・維新ゆかりの地 福山・鞆の浦と平成いろは丸

鞆の浦福山市営渡船場から仙酔島行きの定期旅客船「平成いろは丸」が運航しています。「いろは丸」とは坂本龍馬率いる海援隊の乗り込んだ蒸気船です。



鞆の浦名産「保命酒」



弁天島×平成いろは丸

観光鯛網と名産グルメ

しおま みなと とも うら

みなとオアシス 潮待ちの港 鞆の浦

鞆の浦 初夏の風物詩 ～観光鯛網～

鯛網は、鞆の浦に約380年も伝わる伝統漁法です。外洋で冬を過ごした鯛は初夏、豊後水道・紀伊水道を抜けて、産卵のため波穏やかな瀬戸内海中央部の鞆の浦沖へとやってきます。一般の方も観光船の船上で潮風に吹かれながら、漁の様子を見学でき、古式そのままに網がしぼられ、力強さと繊細さを感じられる情景は見る人の心に刻まれることでしょう。



Web「鞆物語」より抜粋



鯛そうめん



鯛めし



鯛茶漬



うずみごはん

鞆の浦名物といえば、やはり“鯛”です。鯛めしや鯛茶漬といった定番から、鯛そうめんなど他ではあまり味わえないメニューもあり、みなとオアシスの周辺では、これらの味覚を堪能することができます。

また、うずみごはんは、ぜいたく品とされた具材をご飯に隠して食していたことがはじまりとされる、福山の郷土料理です。みなとオアシスにお越しの際は、是非ご賞味ください。